

たよりあう

過渡期にある世界のための礎

国連未来サミットに寄せたバハイ国際共同体からの声明
ニューヨーク — 2024年8月13日



「人類の和合が確立されな
い限り、人類の幸福、平和、
安全は決して実現しない」

— バハイの聖典から



国際社会は、未来サミットの開催にあたり、深遠な機会、かつ、重大な責務に直面しています。それは、人類の相互依存性を、グローバル・ガバナンス（地球規模の統治）を担う制度や機構の中核に位置付けるというとても重い任務です。

第二次世界大戦後になされた国際連合の結成に始まるいくつもの大きな歩みは、平和で豊かな世界秩序に向けた重要な動きを体現するものでした。その前身たる国際連盟に大いにも似て、世界的な大惨事による灰塵の中から生まれた国際連合は、真の恒久平和を希求する、その時代における最善の集団的取り組みを意味しました。国連が、グローバル・ガバナンスに関連する事柄に世界のすべての国を関与させることができる唯一の多国間組織であり続けていることには大きな意義があります。そしてその存続は、実効性ある国際的協調が永続的な平和と幸福のための前提条件であるという紛れもない認識の確かな反映なのです。

残念ながら、世界の指導者たちが一連の地球規模の大胆な目標に合意した今世紀初頭に高まっていたかに見えた連帯の精神は、着実に蝕まれつつあります。数十年の間になされた進歩は衰退しています。そして、グローバルな課題は、その対応のために設計されたシステム（諸制度や諸機構）の進化が追い付けないほどに、その規模と複雑さを急速に増大させています。これらの痛ましい動向は、諸々の社会がその深層で直面している病の症状であることに、疑いの余地はありません。すなわち、グローバル社会は、人類は分離不可能なほどの相互依存関係にあるという現実を受け入れきれないという病にかかっているのです。世界情勢に責任を持つ人々、そして事実、人類の大多数が、この真実の深遠な意味を受け入れるようになるまで、深刻な危機は深まり続けるでしょう。これを信じられる理由は十分過ぎるほどにあります。

このように、現在の軌道を進み続けることがもはや不可能となっている時節に未来サミットが開催されます。機構の改革に向けて表明されている何百もの勧告案それぞれに、潜在的な利点がありますが、目下の要請は、より大きな取り組みを求めています。最終的に革新が成功裏に果たされるには、基礎となる新たな前提を含む、新たな概念的枠組みを考案する必要があります。

**国際社会は、
深遠な機会、かつ、
重大な責務に直面しています。
それは、人類の相互依存性を、
グローバル・ガバナンス (地球規模の統治)を担う制度や機構の
中核に位置付けるとい
とてつもない
任務です。**

この目的のために、バハイ国際共同体は改革に向けた追加的な提言をする代わりに、人類の一体性という、組織運営の代替的な中核原則が意味するものを今一度、¹ 検討するよう、国際問題の裁定者たちに呼びかけます。この原則を完全に受け入れなければ、永続的な平和と繁栄は彼方遠くの希望であることになりはなく、グローバル・ガバナンスのためのシステム (諸制度や諸機構) さえも、分断を強め、不平等を深め、すべての人の共通善よりも特定集団の利益を優先させる便宜となるでしょう。人類

の一体性を国際的諸事の中核に位置付けることは、さらなる大惨事の発生を食い止め、恒久的な平和と調和を確かなものにするために必要な前提条件であると、私たちは確信しています。

1 国連の創設50周年、及び75周年に寄せて、バハイ国際共同体から発表された声明文『ターニングポイント—岐路に立つ国々—』、『ふさわしい統治—人類と公正な世界秩序への歩み—』を参照。

分かち合われる物語

過渡期におけるアイデンティティ

人類家族の一体性を認めることは、画一化を求めることでも、確立されている多くの統治機構の長所を放棄することでもありません。むしろ、無限に展開する多様で交差し合う文化的・歴史的表現も含めて、すべてを包括する超越的なアイデンティティをすべての人々が共有することを意味するものです。そして、私たちが生きる時代は、相互の結び付きと統合がその特徴としてますます強まる時代であるため、意思決定のための新たな雛型が必要とされています。

無限に展開する
多様で交差し合う
文化的・歴史的表現も含めて、
すべてを包括する超越的な
アイデンティティを
すべての人々が
共有する。

現行の諸制度や諸機構は、この現実を認識する代わりに、不信を生み、競争を強化するという、アイデンティティに関して、前述したものとは相反する理解の中に深く埋め込まれています。「私たち」と「彼ら」という分類は、進歩についての理解をいっそう不完全にするために展開され、ある集団が他の集団より不当な優遇措置を受ける事態を招いています。境界で囲まれた範囲への帰属意識は歴史を通じて存在してきていますが、その外縁は、さまざまな状況をきっかけとして、地域社会から都市、そして国家へと、時間をかけて拡大され、人類の生存と繁栄を確かなものにしてきました。そして、その変遷はより高度な統合へと向かっていますが、その頂点にはまだ達していません。地球規模の相互依存の関係に入っている現代において、新たな形をした相互の結び付きを推進する力によって、これまでにない一步を踏み出すよう、私たち人類は求められています。それは、帰属意識が及ぶ範囲を、「他者」呼ばわりするいかなる行為をも超越し、人類全体を受け入れ、その豊かな多様性を無限の力の源泉として活用する範囲にまで拡大することです。

国際的な統治の分野では、境界で隔てられたアイデンティティ概念に基づく分断は、国家主権という概念を通じて最も明確に表現されます。国家のアイ

デンティティは不動であり、地域や国家の優先事項は地球規模の課題と競合し、世界のある地域の進歩は他の地域の不利益となり、国家の力は支配と蓄積の能力によって画定されるという想定が、長い間、国際的な統治の輪郭を主に形成してきました。けれども、気候変動や感染症の世界的大流行という国境なき脅威、社会を進歩もさせ、かつ、分断もするテクノロジーの能力、あるいは世界中を人々が移動することでもたらされる問題と機会——これらによって、絶対的な国家主権の維持はますます叶わぬものとなってきています。

そこで、国際社会の前に提示される中核的課題は、主権について新たに拡大された概念を考案することです。これは、部分の利益は、全体が進歩することでどう最善化するかを検討することです。時間軸が未来へとさらに延ばされていくに伴い、不均衡な状態にある、個人、共同体、国家、そして世界の利益の是正はますます進むことが認識された上で、このような再定義がなされるなら、自国に対しても、全人類の幸福に対しても、正当な関心を持つことが奨励されていくでしょう。そして、そのような再定義は、多様性を脅やかしたり均質性を凝り固まらせるどころか、より大きな意識で共有された帰属意識の中で個別のアイデンティティを受け容れることに伴われる、力と美を調和させることになるでしょう。

このような取り組みには、人類の未来に関する共有のビジョンの策定を伴う必要もあります。歴史には不公正、競争、危機が満ち溢れていても、これらの特徴だけが、現在の秩序を規定することはありません。連帯、思いやり、そして希望もまた、社会の混乱の只中でさえ、前進を後押ししてきました。このようにより万全を期した歴史的視点は、私たちが一団となって進む軌道を敷くうえで重要です。それにより、長期的視点に基づく新たな基盤を築くことが可能となるからです。従って、今日起こされる行動は、過去の欠点から学ぶと共に、人間精神の建設的表現を活用するものでなければなりません。

「全ての人々に対する愛と、人類にとって最大の利益を最重要視することを通じて、世界の和合が実現され、人類の多様性の無限の表現が最高の形で達成されるのです。」

— 万国正義院、バハイ信教の世界的統治機構

共に歩く道

諸々の人間関係を作り直すうえでの正義の原則

人類一体性の認識は、個人と国家がどう関わり合うか、そしてこの惑星とどう関わるかに対して大きな意味合いを持ちます。ならば、暴力、利己主義、敵対主義が人間の本質を反映しているとする意見が多勢を占める世界で、統合と共存が高度に進んだ未来が実現可能となるにはどうしたらよいでしょうか。必要とされるのは、これまでの在り方を率直に認めることです。言うなれば、これらの低次の行動様式は、常態化されてきただけでなく、過小評価されることが多い人類についての高次の概念、すなわち、愛すること、思いやりを示すこと、より大きな大義を支えるために犠牲を払うこと、許すことという人間本来の能力を蔑ろにして、褒賞を受けてきました。しかし、人間性の否定的な表現に主に基づく行動様式を奨励する傾向は、偏見や紛争、極端な不平等を拡大させるばかりか、地球資源の際限のない搾取を結果的にもたらしています。

人間の本質を概念化し直すことは容易ではありませんが、社会を支える諸々の関係性に深い影響を与えることができます。そこで、正義に対する一般的なアプローチを例に取りましょう。説明責任と報復を往々にして第一義の目的として求めるこの手法は、特定の状況では明らかに利点があっても、相互依存の世界ではその分析を終わらせることはできません。

なぜなら、それらは、結果的には、復讐心を生み、分断を強め、不信と憤りをかき立てる可能性があるからです。それゆえ、正義という概念には、和合と福利を実現するという重要な課題を手始めに含むようにならなければなりません。

拡大された正義の概念は、実際、どのような姿に見えるでしょう。経済学の分野で考察すると、すべての個人に十分な物質的手段がある時代では、競争や蓄積ではなく、人間の尊厳、権利、福利という広角のレンズを通して

正義
という概念は、
和合と福利を実現する
という重要な課題を
含まなければ
なりません。

資源の分配を再評価するよう、正義は私たちに求めるはずです。そのためには、個人は利己的でしかないという前提の妥当性を深く問う必要があります。持続不可能で搾取的な行動様式に褒賞を与えるような狭量で唯物的な理論や測定体系は、最終的には、人間存在の社会的、環境的、精神的側面とともに、足るを知るという課題を考慮に入れた新たな経済的取り決めに道を譲る必要がでてくるでしょう。

拡大された正義の概念というレンズを通した問いかけをするなら、それは基礎前提に対してだけでなく、他の実存領域にもなされる必要があります。ごく一部を例としてあげるなら、平和と安全保障、青少年と将来の世代、科学と技術、両性の平等、グローバル・ガバナンスが該当します。もし世界の一部の国々が他国を犠牲にして自国の短期的繁栄を優先し続ければ、最終的には、当事国だけでなく人類全体が、不均衡に起因する不公正がもたらす必然的な結末に直面することになるのです。国際社会がこのような問題や類似する問題に立ち向かうなら、行き詰まりの打開と、建設的で永続的な解決策の考案と実施に向けた取り組みが可能となるでしょう。

「正義の目的は、人びとの間に和合をもたらすことである……世界の有機的統合と人類の平穩は正義に依存する。」

— バハイの聖典から

分かち合われる責任

言動を行動に変えるリーダーシップ

相互依存性と人類の一体性の受容は、あらゆる水準の指導者たちによる意思決定の在り方に重要な意味合いを持ちますが、地球水準の舞台においては特に重大です。現代の課題は周知されています。しかし、国連憲章や世界人権宣言のような基盤をなす数々の国際文書は、公正な精神を持つ個人や国家などから受け容れられてきた一方、世界中の人々の実生活や地域社会の現実においてその効力が完全に発揮されるようになるには、さらなる努力が必要です。

例えば、科学的根拠、長期的な経済予測、道徳的要請のすべてが、気候変動に対する緩和と適応に向けて緊急の取り組みが必要であることに説得力ある理由を提供しています。パリ協定を始めとする数多くの国際協定を締結した国々は一定の措置を講じることを誓約しています。しかし、このような措置はまだ十分に取られていません。願望と行動のこの相反は、国際的会合の場における領域の中でも、平和と安全保障であれ、貧困削減であれ、女性の地位向上であれ、いずれにも共通する特徴です。懐疑心や警戒心を抱く傾向が、意義ある永続的な措置の導入を妨げていても、数え切れないほどの背信行為が痛ましくも繰り返されてきた歴史と照らし合わせれば、無理からぬことです。しかし、世界情勢と、人類の強まる相互の結び付きは、言葉から実践への移行を要求しています。それゆえ、指導者たちの役割は、何かなされるべきかという主張を超えて、必要な措置を起こすことのできる環境づくりに向かっているのです。

指導者たちは、究極的には、個人や集団が目的とするものへの偏狭な理解に根ざした、意志の麻痺を克服しなければなりません。この現状の惰性に対抗するには、より高度な和合を基盤にして新しい形をした国家運営の方法を個々の指導者が採用する必要があるでしょう。国際的な協議の舞台で提案

された政策や措置を検討する際には、指導者たちは、「この決定は人類全体の利益を促進するだろうか」と自問することが要求されます。

**集団の
福利を優先させる
ために立ち上がる人々の
周りに人類は最終的に
結集し、その人々を
称えるように
なるでしょう…**

そのような道を進むには勇気が必要ですが、それは実際に必要とされています。歩み進めるなら、数え切れないほどの恩恵が必ずやもたらされるでしょう。世界の人々は、最も差し迫った懸念に対処するために行動を起こす指導者や機構を切望しています。そうした指導者が、誠実さと信頼性を示し、公約を守り、公平性をもって行動し、英知と正義をもって政治・経済問題を指導することができれば、さらに大きな支持を得るようになるでしょう。現実には、集団の福利を優先させるために立ち上がる人々の周りに人類は最終的に結集し、その人々を称えるようになることを、歴史が証明しています。

「いく人かの高遠な心を持つ優れた統治者ら——献身と決意の輝かしい具現者たち——が全人類の利益と幸福のために、確固とした決意と明確な洞察力をもって世界平和の大業を確立しようと立ち上がるとき、真の文明は世界の中心にてその旗をひるがえすのである。」

— バハイの聖典から

分かち合われる枠組み

変容のための基盤を築く

これまでに提示した考えは、人類の相互依存性を無条件に受け入れることを基盤にした共通の枠組みを概説するものです。しかし、この枠組みの中核にある価値観を多くの人々が主張していても、実効的な適用は現実には不可能であると異論を申し立てられることも少なくありません。それでも実際に適用するなら、どのような姿として現れるのでしょうか。

そこで、世界中の国々で運営されているバハイ共同体の取り組みを紹介いたします。この枠組みの適用を通して平和で繁栄した社会の促進を図る方法を基軸としながら、友人たち、同僚たち、あらゆる背景の市民とともに経験が積み重ねられてきています。人類の相互依存という枠組みが実効性を持つことの証拠として、個人の生活、共同体の力学、機構による取り決めにおいて、顕著で建設的な変革が実現されています。事実、世界のあらゆる国や地域で具体的な形で進められている共同体の取り組み² は、地域から国際水準に至る機構による取り決めによって導かれ、支えられています。取り決めの手はずがこのように整っていることで、洞察と最善慣行の生成と拡散が世界全体で可能となり、現地の状況に応じて広く採用され、実施されています。

バハイ共同体が実施する自発的な取り組みの多くは、村や近隣に協議の場を設けることから始まります。背景や信条に関わりなく、その地域社会に住む隣人を招き、彼らの物質的・社会的現実をよりよく理解することで、彼らが直面する困難な課題への適切な対応を考案します。こうした場から、教育キャンペーン、保健プロジェクト、環境意識向上活動、人道支援活動といった、短期的な社会経済開発の自発的な取り組みが数多く生み出されてきました。

2 『世の改善のために: 社会・経済発展に向けた、世界規模でのバハイ共同体の取り組み』から、多様な事例を参照。

このような取り組みの多くは、共有された枠組みの適用に関する継続的協議プロセスを通じて、地元地域や全国水準の機構からの支援を時の経過とともに増大させています。たとえば、教員養成や識字率向上、女性のエンパワーメント、食糧安全保障、社会的結束、行動を喚起する芸術的表現といった一部の取り組みは、そうした支援を得ながら、段階的に複雑性を高めています。地元の人々が長期的進歩を維持するために必要な能力や資質を発達させるに並行し、この変革のプロセスによって、400件だった個別の先駆的取り組みが、過去10年間に180以上の国や属領で、20万件までに急増したことは注目に値します。

実際、これらの共同体では、人類の一体性を受け容れることが社会進歩に向けたアプローチに幅広い意味合いを持つことが確認されています。つまり、問題解決へのアプローチは、いかに崇高な大義を支持するものであろうと、敵対的なものであれば、恒久的な変革の達成には限界があること、意見の相違は多様な視点から価値観や戦略を探求する機会であること、社会の構成員すべてに共通善に貢献する能力、権利、責任があること、そして希望に満ちた未来は、意識的かつ献身的な努力をすることで、手の届く範囲にもたらされることが確認されているのです。

多様な文化に応じ、包み込むような共通の枠組みの中で展開されるこうした経験から学ぶ教訓は深遠なものです。枠組みの原則に忠実に従うことは、浅薄な願いとはまったく異なります。それは人々の間に共感を呼び起こし、地球規模のビジョンに向けて効果的に貢献できるように行動する一体性のある共同体の建設を世界中で促進します。手元の課題の達成は確実に可能です。新しい概念的枠組みに向けた歩みが取られるなら、世界中の何百万もの人々がその前進を支持し、応援する用意ができています。

「われわれは今、決然として立ち上がり、全人類の平和と安寧と幸福、知識と教養と勤勉、尊厳と価値と地位を促進するあらゆる手段を手にしなければならない。」

— バハイの聖典から



人類は希望と可能性を秘めた決定的な瞬間を迎えています。これ以上の大惨事を避けるために、一丸となった意志的な行動によって、より良き世界の基礎を築くことは可能です。また、そうしなければなりません。

世界の状況を踏まえると、和合や正義という崇高な理念に基づき、現行の取り決めの在り方を問い、定義し直すという展望は、現実性に欠いた理想であり、時機を得ていないとさえ感じる人もいます。しかし、新たなものへと切り替えるにしても、今でない別の時期のほうが時宜に適うと提言するなら、グローバル・ガバナンスに対する現行のアプローチそのものが、世界を苦しめている多くの病を産み出している事実を認識し損なっていることとなります。新しいやり方で対処しなければ、これらの問題は段階的に増大し続けるだけになるでしょう。

一丸となった
意志的な行動によって、
より良い世界の基礎を
築くことは可能です。また、
そうしなければ
なりません。

この目標を果たすために、未来サミットとその後に続くプロセスの参加者に対し、一堂に会して共に学ぶという、深遠な行為に参加していただくよう、バハイ国際共同体は呼びかけます。指導者たちは、使い古された概念や役に立ちそうもない前提にしがみつki続けるのではなく、世界の人々とともに立ち上がり、断固とした意志をもって、適切な解決策を求めて共に協議しなければなりません。私たちの未来を築くことを可能にする揺るぎない基盤を築くことは、一丸となって取り組むべき課題です。それは、公正で調和のとれた未来に向けて分かち合われる、私たちの物語においての次章なのです。







Bahá'í
International
Community

著作権 © 2024 バハイ国際共同体

866 United Nations Plaza, Suite 120
New York, NY 10017, USA
www.bic.org



声明をオンラインで読む